

五月の法座・行事

- 十二日・闍如上人御逮夜・常永代経
（午後二時）
- 十三日・闍如上人御命日
（午前八時）
- ・同朋の会例会
大阪教区第七組
長教寺住職
稲垣 洋信 師
（午後二時）
- 二十二日・常如上人御祥月御命日
（午前八時）
- 二十四日・正信偈書写の会
（午前十時）
- ・定例法話
大阪教区第十五組
泉勝寺住職
小松 肇 師
（午後一時半）
- 二十七日・宗祖聖人御逮夜
（午後二時）
- 二十八日・宗祖聖人御命日
（午前八時）

◆永代経志納

- 法名 釋尼信順
- 願人 大阪市東淀川区
袋井 晃子 殿
- 法名 先祖代々
- 願人 大阪市北区
榎並 章子 殿
- ご進納ありがとうございます。

今月の法語

かの如來の
本願力を觀ずるに
凡愚遇うて
空しく過ぐるものなし
『入出二門偈頌』

編 集 後 記

先日、御輪番からご指摘をいただき、十何年ぶりに草むしりをしました。それを機に空きスペースができたので何か植物を育てたいと思いました。また綺麗を維持することができれば、ゴミをポイ捨てする人も減ると思いましたので、今まで気が回らなかった部分ですが、今後意識して取り組んでまいります。

堀河

六字城

「和讃のおはなし」

真宗大谷派 鍵役
宣心院 大谷 暢文

『現世利益和讃（十三）』

南無阿弥陀仏となふれば

観音勢至はもとにも

恒沙塵数の菩薩と

かげのごとくに身にそえり

（南無阿弥陀仏と称えたならば、観音菩薩と勢至菩薩がともに、数限りないほどの菩薩方と、影となってこの身に添って護ってくださるのです。）

発行

真宗大谷派（東本願寺）天満別院

大阪市北区東天満一―八―二六

電話 六三五―一三五三五

代表者 輪 番 武宮 信勝

このご和讃は『観無量寿経』に依つて、お浄土にいらつしやる菩薩の護念を示されたものです。ここでのお浄土とは、もちろん阿弥陀さまのお浄土です。

どの仏さまもそうですが、必ず両脇に菩薩さまを伴われています。奈良や京都の名刹古刹に行きますと、仏さまの両脇に必ずといっていいほど菩薩さまを伴われています。その菩薩さま方を脇侍といい、仏さまのお力を具体的に娑婆世界に顕現させる役割を持っています。

阿弥陀さまの脇侍は観音菩薩と勢至菩薩です。観音菩薩は阿弥陀さまの慈悲のお力を、勢至菩薩は阿弥陀さまの智慧のお力を私たちに顕現してくださいます。つまり私たちは、慈悲と智慧のお力によつて護られているのです。

今までの『現世利益和讃』十二首は『金光明経』に依りましたが、これよりの三首は『観無量寿経』に依ります。特にこのご和讃と次のご和讃は『観無量寿経』の普観の「無量寿仏の化身

無数にして、観世音・大勢至とともに、つねにこの行人の所に来至したまふ」が本になっています。「行人」とは、南無阿弥陀仏を称える人、お念仏を称える人のことです。行人のもとに観音菩薩と勢至菩薩が来至してくださるのです。このことは何を意味するのでしょうか。他宗派のお寺の仏さまは、すべてがお二人の菩薩方を伴っています。他宗派のお寺にある阿弥陀仏も必ず観音菩薩と勢至菩薩を伴っています。しかし浄土真宗のお寺の阿弥陀さまは、各ご家庭のお内仏の阿弥陀さまは、観音菩薩と勢至菩薩を従えず、お一人きりです。それには特別な意味があります。観音菩薩と勢至菩薩は、阿弥陀さまの化身である、限らない菩薩さまを従えて、この私たちのもとに、影のように護り付き添ってくださっているからです。ですから、浄土真宗のご本尊である阿弥陀さまはお一人の形をとっておられるのです。そのことが、このご和讃からもうかがえます。

霊園・墓石



太田石材店

本社

〒536-0001

大阪市城東区古市1丁目23番20号

本店

〒530-0042

大阪市北区天満橋1丁目2番18

TEL 06-6930-5075

0120-30-5075

FAX 06-6930-5078

輪番雑感

「女人禁制」から問われること

輪番 武宮 信勝

大相撲の「女人禁制」が社会問題となつて再興している。千年以上の「伝統」とか「神事」といった説明は当たらないと元学習院大学教授、高埜俊彦氏は語る。私とほぼ同年代の彼は歴史学者として知られる。彼によれば相撲が国技と呼ばれるようになったのも、行事が直垂を着て烏帽子をかぶるのも、明治末期からと表明している。更に相撲と女人禁制がいつ結びついたかは不明とし、ただ死や血を穢れとする思想は、江戸時代に強まり、將軍徳川綱吉が出した「服忌令」がきっかけになり、以後近親者の死に際し、喪に服する機関を定めたもので、殺生を禁じた「生類憐みの令」と表裏をなす政策が発端。朝廷や神社を除きそれまで女性を差別する思想は普及していない。この「令」以降、出産・月経も「穢れ」とみる考え方が武家だけでなく、商人・町人・農民にまでも深く浸透してしまつたと語る。今日の葬式後の「清め塩」や喪中はがきの因習もその名残と言える。仏教も女人に対する性差別は奥深

く、近年まで山岳信仰では、修行の妨げとなるとか、戒律によってとかで女人禁制というところで蔑視してきた。中世の比叡山仏教はその象徴的であつた。現代でも大峯山（奈良県）など一部に女人禁制が敷かれていると聞く。小生の幼き頃、本堂の内陣に女性が入ると姉たちは老院からよく叱られていた。大谷派なる我宗門において、女性蔑視の教団体質に対し、女性室「あいあう」が立ち上がり、性差別の問題が語られてきたのは、そう遠くない。例えば女性住職の問題・坊守制度の問題・女性の内陣出仕の問題・寺院規則上の後継者において「……性を名乗る男子たる教師」の見直し・宗務役員（職員）の管理者起用等々様々な問題が露出された。今日は、同朋社会の顕現の理念に立ちほほ是正されつつある。親鸞聖人を宗祖と仰ぐ私たちは、阿弥陀仏の本願は老少・善悪・男女・貴賤を問わず全ての人が平等なる「いのち」をいただいていると教えられている。にもかかわらず現実の差別性は永く、深く人間の悲しみを生んできた。その悲しみを阿弥陀仏の大悲として、政府官僚からのセクハラ被害等々も含め、共に見直す学びが求められている。

◆連続法話の会

左記の通り現代法話研究会獅子吼の会主催の連続法話の会が開催されます。皆様のお越しをお待ちしております。

記

日時 六月五日（火）

午後四時から午後六時

会場 天満別院 本堂

講師 講 師

第一九五条

「人のわるきことは、」

三好泰紹師（泉大津市・蓮正寺）

第二二三条

「心得たと思ふは、心得ぬなり」
稲垣洋信師（淀川区・長教寺）

第二三九条

「南無阿弥陀仏の主になる」

廣瀬俊師（東大阪市・法観寺）

第二四四条

「五劫思惟の本願に

すぎたることはなし」

山雄竜磨師（堺市・以速寺）

◆ようこそお参り

くださいました

去る四月二日、北海道教区第十七組本照寺同朋の会（十四名）様がお参りに来られました。本照寺様は武宮輪番の生寺であり、今は甥子様が住職をされています。輪番の法話の後、別院の由緒と沿革の説明があり、その後、展示している六字城の額と戦前の本堂の大きさを垣間見る事のできる上卓と蓮台を見学されました。

◆別院墓地のご案内

現在、天満別院では真宗のご門徒の墓地使用者を募集しています。冥加金、申請方法等、詳しくは別院寺務所までご連絡ください

◆同朋大会開催のお知らせ

左記の通り第四十三回大阪教区同朋大会が開催されます。先月号でもご案内いたしました。ご参加希望の方は別院寺務所までご連絡ください。

記

日時 五月二十六日（土）

午前十時～午後十二時三十分

会場 難波別院 本堂

テーマ

集おう いのちのサンガ

くつながるいのち

託されたいのち

講師 東京教区

東京第五組 存明寺住職

酒井義一氏

参加費 お一人千円



尚、収骨等の儀式執行は別院職員が執り行います。